

無人システムを利用したオーロラ現象の南極広域ネットワーク観測：共役点イベント解析（2）

Antarctic large area network observation of auroral phenomena using unmanned system: Conjugate auroral event studies (2)

*門倉 昭¹、山岸 久雄¹、岡田 雅樹¹、小川 泰信¹、田中 良昌¹、片岡 龍峰¹、内田 ヘルベルト陽仁¹、大塚 雄一²

*Akira Kadokura¹, Hisao Yamagishi¹, Masaki Okada¹, Yasunobu Ogawa¹, Yoshimasa Tanaka¹, Ryuho Kataoka¹, Herbert Akihito Uchida¹, Yuichi Otsuka²

1. 国立極地研究所、2. 名古屋大学

1. National Institute of Polar Research, 2. Nagoya University

2017年9月28日に、南極昭和基地とアイスランドとの間で同時観測された共役点オーロライベントの解析結果について紹介する。この時、南極側では、昭和基地から東に約500km離れた沿岸域のアムンゼン湾に設置されている「無人オーロラ観測装置（UAO：Unmanned Auroral Observation system）」によっても、全天オーロライメージャのデータが取得されており、従来よりもより広い経度範囲でのオーロラ活動の共役性の議論を行う。

キーワード：オーロラ、共役点観測、サブストーム

Keywords: aurora, conjugate observation, substorm